

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

1. 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2. 保育士・教師としてできる個別配慮
3. 介助者が加わったときの役割
4. 室内トラブルへの対応その1解決のポイント
5. 室内トラブルへの対応その2たち歩きやエスケープ
6. 室内トラブルへの対応その3人間関係のトラブル
7. 室内トラブルへの対応その4パニックを起こしたときの対処
8. 保護者とともに子どもを育てるその1保護者面談の進め方
9. 保護者とともに子どもを育てるその2親から学ぶ支援のあり方
10. 周りの子どもやその保護者への対応その1周辺の子ども
11. 周りの子どもやその保護者への対応その2保護者に対して
12. チーム支援その1確かな情報を共有する
13. チーム支援その2実態の把握方法
14. チーム支援その3組織的支援の進め方
15. 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3. 現代における子育て支援について理解を深める。

授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 保育実践の基本的構造について
8. 多様な保育内容とその方法
9. 子育て支援について
10. 西洋と日本の保育の創成期
11. 西洋の保育実践の発展過程
12. 日本の保育実践の発展過程
13. 児童中心主義の保育を探る
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育にむけて
まとめを行ってから試験を行う。

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

佐伯一弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

1. 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
2. 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
3. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
 - ①親や保育者との出会いと関わり
4. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
 - ②友だちとの出会いと関わり
5. 子どもと保育者の関わり
 - ①子どもとの信頼関係
6. 子どもと保育者の関わり
 - ②子ども同士の関係をつなぐ
7. 遊びのなかのひととの関わり
 - ①遊びと子どもの育ち
 - 課題レポートを提出
8. 遊びのなかのひととの関わり
 - ②遊びのなかの友だちとの関わり
9. 生活を通して育つひととの関わり
 - ①親や家族との関わり

10. 生活を通して育つひととの関わり
 - ②園生活とひととの関わり
11. 個と集団の育ち
 - ①一人一人の理解と個と集団の関係
12. 個と集団の育ち
 - ②クラス集団の育ちと個の育ち
13. ひととの関わりを見る視点
 - 自己の発達とひととの関わり
14. 現代の保育の課題と領域「人間関係」
15. 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
 - まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とし、5回を超える欠席で不合格とする。

テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実態を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藪内 順子	選択	1	看護師、看護教員			

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をとおして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
 2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実際。成長・発達の観察と測定
 3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
 4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
 5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
 6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
 7. 子どもの疾病と適切な対応②個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
 8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
 9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
 10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
 11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
 12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
 13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
 14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
 15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
- まとめ
終講試験

授業の方法

講義および演習と実習。視聴覚教材、グループワークも取り入れる。グループでのポスター作製およびポスター発表も行う。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。

事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%
平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型、レポート等の提出期限を守らないの場合等は減点対象とする。
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止および急ぎなどの公欠となった場合は認める。欠席した場合、1回につき2点減点とする。

テキスト

①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）

予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。この講習は講義2回分とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを十分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEI パーソナリティーのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

授業計画

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
2. 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を経験する）
3. 子どものからだと表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
4. 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
5. 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
6. 創造性を豊かにする身体表現の体験
7. 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
8. 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とし、2.5回を超える欠席で不合格とする。

テキスト

池田裕恵・猪崎弥生編著 「保育内容「表現」－からだで感じる・表す・伝える－」改訂第2版
株式会社杏林書院

参考図書

授業時に紹介する。

留意事項

第1講義より2号館体育室で行う。動きやすい服装、体育館シューズ着用で出席すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

幼児の心身の発達の道筋を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、保育者の役割についての理解を深める。幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの基本と心構えを理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、保育者の役割を理解する。またカウンセリングマインドを通して保護者を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するという事の本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、保育相談にも対応できるような、具体的な事例を挙げながら指導する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 乳幼児期の発達と子どもの理解
3. 環境を通しての教育
4. 遊びを通しての指導
5. 幼児の主体性の育成
6. 保育者の役割
7. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（保育者の援助）
8. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（遊びの目的）
9. 保育形態による幼児の育ちと保育における評価
10. 幼児期の教育と小学校教育の連携と現状
11. 家庭や地域と連携した保育
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 子どもの健やかな育ちを支援する

14. 特別な配慮を必要とする子どもを支援する
15. 授業全体を振り返り、定期試験を行う。

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表し、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループ討議後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- ③平常点50%、課題レポート20%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とし、5回を超える欠席で不合格とする。

テキスト

「どの子にもあ～楽しかった！の毎日」 赤木和重 岡村由紀子
金子明子 馬飼野陽美著 ひとなる書房
保育所保育指針解説 ・幼稚園教育要領解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、実態に適した音楽指導法を研究する。

授業計画

1. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
2. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
3. 楽典の基礎と他教科とのかわり
4. リコーダーの理解と合奏
5. いろいろな楽器の理解と奏法
6. 合奏教材と指揮法基礎演習
7. 歌唱教材の研究と演習
8. 歌唱教材の研究と演習
9. 鑑賞教材の研究（音楽の歴史）
10. 鑑賞教材の研究（日本の音楽・世界の音楽）
11. 音楽づくり
12. 日本の音楽教育
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 振り返りと展望

授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①授業で研究発表、演奏を行い、フィードバックをする。

- ②平常点50%、定期試験50% 各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について

授業時の発表や演習も評価の対象となるのでできるだけ、欠席しないこと。

テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書

教育芸術社「小学校の音楽1～6」

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。